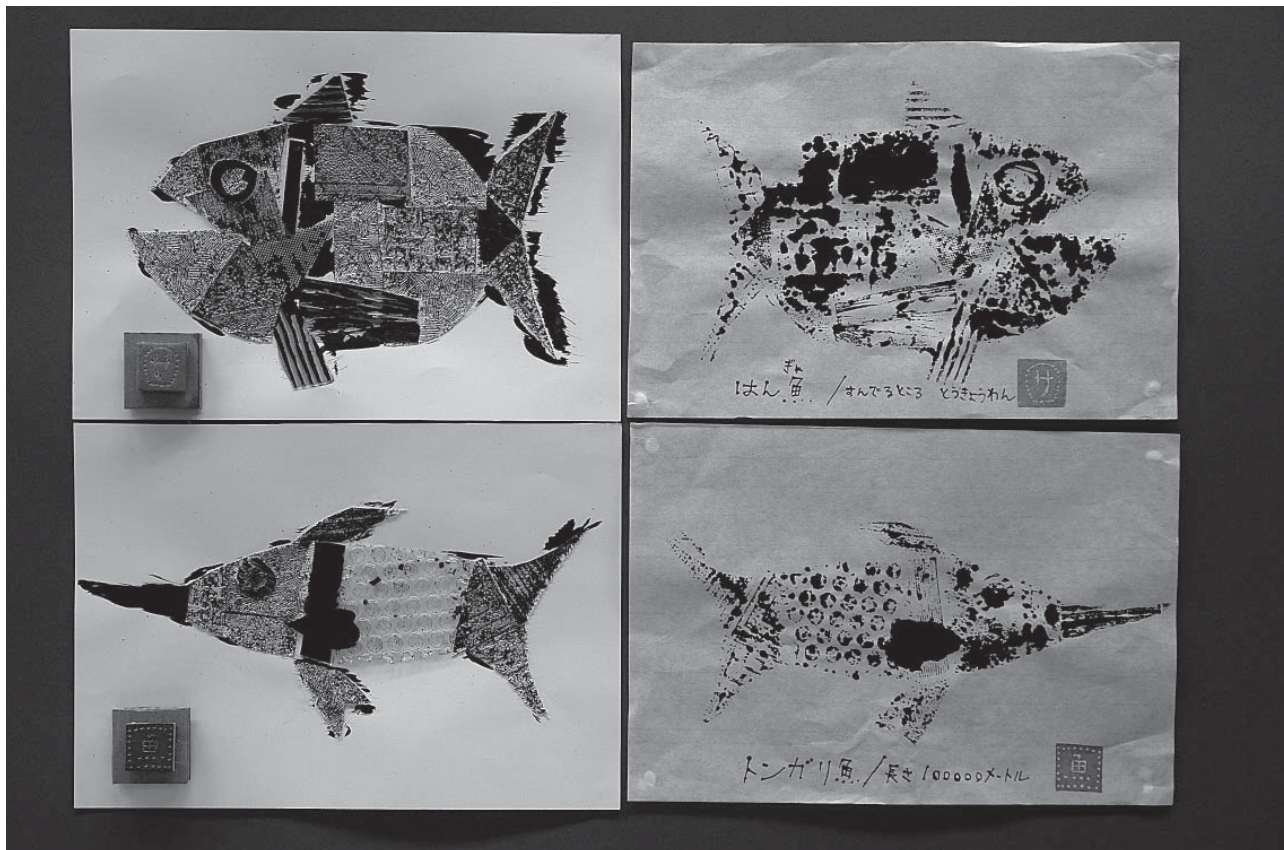


感触遊びから 版画の造形

用意された素材をただ使うだけでなく、見た目や触感にも着目することで、それぞれの素材の新しい活用方法や魅力の発見につながります。身近な素材をさまざまな角度から見つめ直し、幅広い造形活動へと発展させることが可能になります。



はん ぎょ 「版魚」

魚の表面を写し取る^{ぎょたく}魚拓というものがあります。魚拓からは、魚の大きさや全体像だけでなく、ウロコ、ひれ、目、口といった細かな部分の形や表情を感じ取ることができます。この特徴を生かして、子どもの造形遊びに欠かせない素材の質感や触感、表情を楽しみながら自然に感じ取るプログラムを考えました。

素材をじっくりと見て、触ってそれぞれの素材を吟味することで、素材への親しみが生まれるでしょう。思ってもみなかった素材の効果と表情の発見に、驚きと楽しさを見いだすに違いありません。視覚と触覚を合わせて選んだ凸

凹素材を魚の形にコラージュしてプリントすると、平面に写し取られた凸凹を再認識することが可能になります。魚のうろこやひれなどのザラザラした感じやツルツルとした肌合いを、いろいろな素材の凹凸を使って表現してみましょう。素材の違いでインクのつき方も異なります。素材は、布の端切れ、糸、梱包材料など、いろいろな手触りの素材を集めておくといいでしょう。

モチーフを魚だけでなく、乗り物、鳥や動物などテーマを変えることで、自由な発想で楽しく「コラージュ遊び」が展開できます。

「版魚」で紹介した方法は、版画の技法のひとつ「コラグラフ (collagraph)」というものです。語源は「コラージュ (collage)」と「グラフィック (graphic)」をあわせたものです。

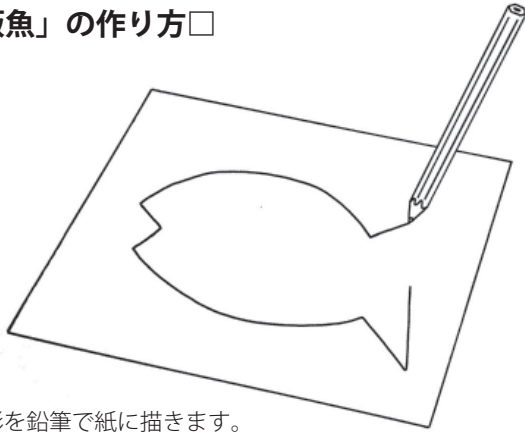
「コラージュ」は「貼り絵」とも言われますが、いろいろな質感の異なる素材、布、紙、金属、写真などをひとつの画面に貼り合わせて作る作品のことです。そして、「コラグラフ」は、版を彫って作る版画ではなく、版となる板や厚紙などにいろいろな素材をコラージュしたり、ジェッソ（石膏）などを塗って表面を構成した版にイン

クをつけてプレス機やバレンを使って刷ります。

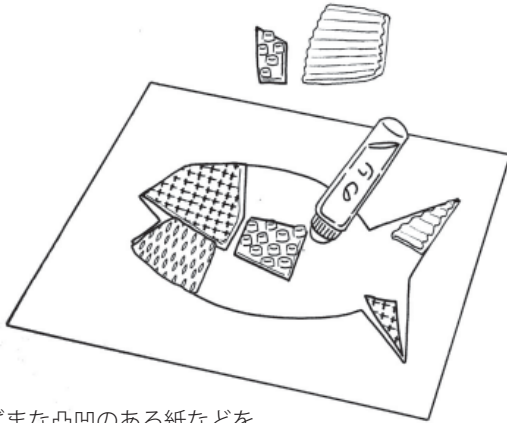
版画プレス機を使う場合は、圧の調整が難しく、強すぎると版が割れてしまうこともあります。版を作るときに、版自体があまり厚く（2～3mm程度）ならないように注意しましょう。また、プレス機を使わなくても、今回紹介したように、バレンを使って、手で版の表面の凹凸にあわせて強さを調整して刷ることもできます。

「コラグラフ」の版の制作は切ったり、はったりと遊び感覚で楽しく制作できます。また、刷った版画と一緒に版自体も飾って、見て楽しめます。

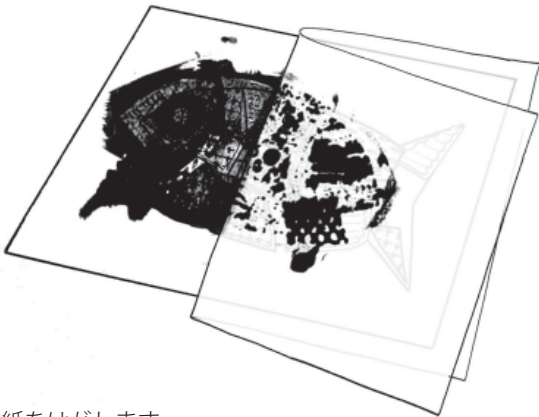
□「版魚」の作り方□



①魚の形を鉛筆で紙に描きます。



②さまざまな凸凹のある紙などを魚の形(輪郭線)の中に接着し飾ります。



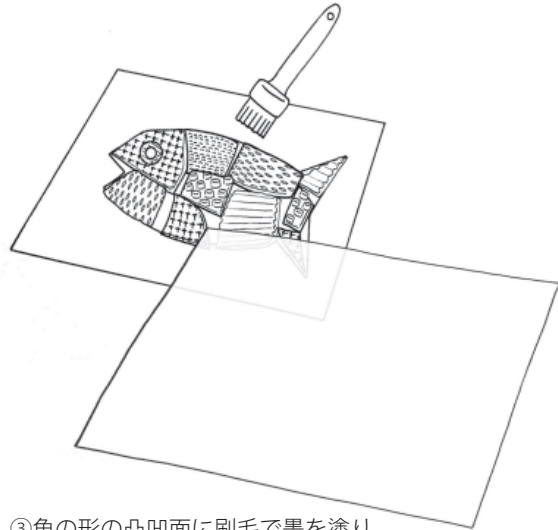
④和紙をはがします。

□「版魚」作りで使う道具□

水のり/木工用ボンド/はさみ/墨/刷毛/バレン/朱肉

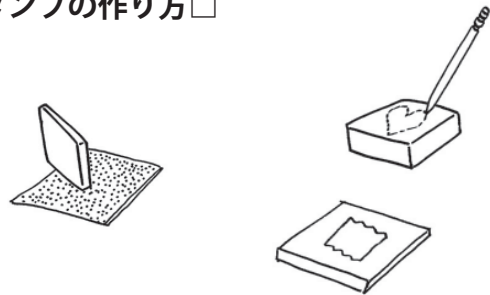
□「版魚」の材料□

- ①和紙 (A 4判くらい)
- ②白い紙 (A 4判くらい) 2枚
- ③スポンジ板 (3mm厚 2.5cm × 2.5cm スタンプ用)
- ④ベニヤ板 (9mm厚 4cm × 4cm)
- ⑤床用両面テープ
- ⑥紙やすり
- ⑦各種凸凹素材

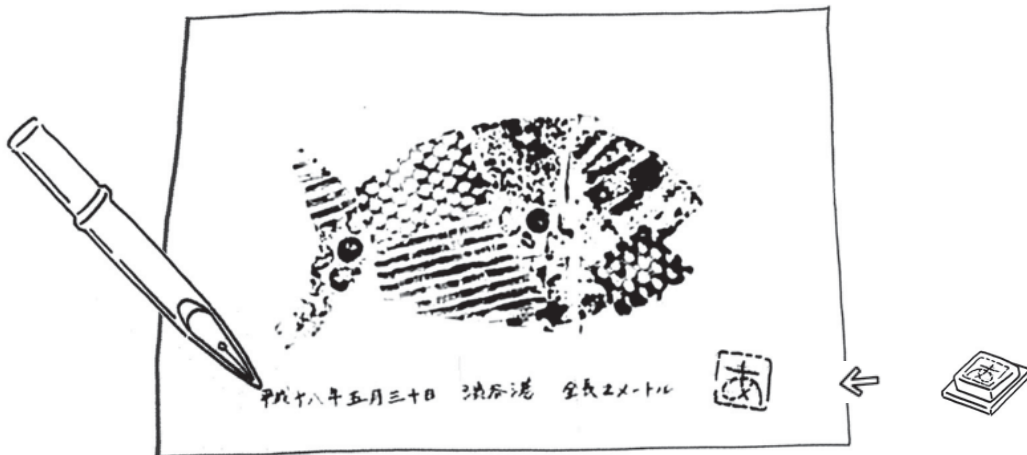


③魚の形の凸凹面に刷毛で墨を塗り、和紙をかぶせ、さらにあて紙をして手で押さえたり、バレンでこすったりして形を写し取ります。

□スタンプの作り方□



⑤スタンプの台座用のベニヤを紙やすりで磨きます。スポンジ板につまようじで、もようや文字をかきます。両面テープでベニヤ板に接着し、はんこを作ります。



⑥竹ペンで魚の名前、重さ、大きさなどデータを書き込みます。最後に朱肉ではんこを押して完成。

イラスト：横須賀ヨシユキ